



恕の心



令和4年12月23日 校長 廣瀬 真樹

終業式!!そして仕上げの3学期へ

いよいよ2学期終業式を終え、年明けからは仕上げの3学期を迎えることになります。学校にとっての節目はどちらかという学年の切り替え、つまり4月の方が確かに大切ですが、年が変わる1月も人生にとっては大切なものです。そしてこの「節目」をいい機会にして気持ちを新たに人々や新しい目標を立てることができる人はとてもすてきだと思います。新しい年を迎えるときに「新年の抱負」を書いたり、家族や友達に宣言したり、心で願う機会がある人はぜひそれを大切にしてください。特に新年、3学期は皆さんにとって何よりも大切な時期です。



3年生→言うまでもなく進路の選択をする時期です。人をうらやむことなく自分で自分の進路をしっかりと決め、「決心と覚悟」をする時期です。頑張ってください。先生方全員、心からあなたを応援しています。

2年生→最上級生になる自覚が求められる時期。3年は「学校の顔」です。わが丸中を引っ張っていく覚悟を全員が持ってほしいです。心の階段を上げる準備をしてください。いつまでも幼い人は、周りからおいてきぼりになり、さみしい思いをしてしまいます。

1年生→いよいよ「先輩」になります。表面だけ偉そうで中味のない先輩はすぐに後輩から見破られます。心から尊敬される先輩は行動に表れるものです。自分の目指す先輩像を確認してください。



サッカーW杯から学んだこと



日本中がサッカー一色になったW杯。ニュースだけでなく実際に生中継を見た人もいるかもしれません。サムライブルーと言われる選手たちの戦いぶりは本当に見ている人たちを感動させましたが、私は監督のこの写真の姿が報道されたときに本当にいろいろなことを感じました。

12月5日(日本時間6日)に行われたFIFAワールドカップ・カタール2022の決勝トーナメント1回戦で、日本代表はクロアチアと1-1のタイスコアで延長戦を含む120分間を戦い抜き、PK戦の末に敗退した。悔しい敗戦の直後に森保一監督が示した態度に称賛に声が上がっている。

海外メディア報道

この「礼」にはどんな意味が込められていたのでしょうか。敗退してしまったことへの「ごめんなさい」(謝罪)もあるかもしれませんが、やはり大きいのはサポーター・ファンへの「ありがとう」(感謝)ではないかと思えます。冷静ではいられないほど悔しい敗戦の後でも、森保監督は堂々と、そして清々しくサポーターへの感謝の意を示しました。

考えてみると、私たちは幼いころから礼の大切さを教わります。そしてそれを実践しています。授業の始まりや終わりの礼だけでなく集会で、部活動で、人と会った時・・・何気なくやっている「礼」にこそ、今一度その意味を考えることが大切なのではないかと思えます。意味を考え心を込めることができ初めて「動作」が「行動・行為」に、「礼」が「礼儀」になるのだと思えます。

この海外メディアの報道はこの言葉で締めくくられています。「たとえ試合に敗れても、勝つことができるのだ」ここから見習うべきことはたくさんあるように思えます。皆さんはどう感じましたか・・・。

校長コラム

「和をもって力となす」

この言葉も森保監督がインタビューで答えていました。よく知られているのは「和を以て貴しとなす」・・・これは聖徳太子の「十七条憲法」の第一条にある文章です。この意味は「相手を思いやり、和を大切にすること」や「しっかりと話し合うこと」ということですが、「和を以て力となす」も共通しているのは和の大切さです。相手を思いやり、リスペクトすることで団結力、一体感が生まれ、大きな力となったのだと思えます。